

日経IRフェア2013

個人投資家様向け会社説明会

Jトラストグループの概要と 今後の成長戦略

Jトラスト株式会社

東京証券取引所 市場第二部上場

証券コード：8508

2013年8月31日

目次

セクション1

Jトラストグループの概要と ファーストステージの振り返り

広報・IR部長 篠原 敏男

セクション2

セカンドステージに向けた今後の成長戦略

代表取締役社長 藤澤 信義

セクション1

Jトラストグループの概要

2013年6月末現在

■商号	Jトラスト株式会社 J Trust Co.,Ltd.
■設立年月日	1977年（昭和52年）3月
■代表者	代表取締役社長 藤澤 信義
■事業内容	ホールディング業務・債権買取業務
■連結総資産	2,299億円
■連結純資産	732億円
■連結従業員数	2,070名
■グループ事業会社数	19社 うち金融14社



イッコー
創業

大証2部へ
上場

現社長の藤澤
が筆頭株主に

社名を
Jトラストへ

持株会社へ

東証2部
上場銘柄に

1977年

1998年

2008年

2009年

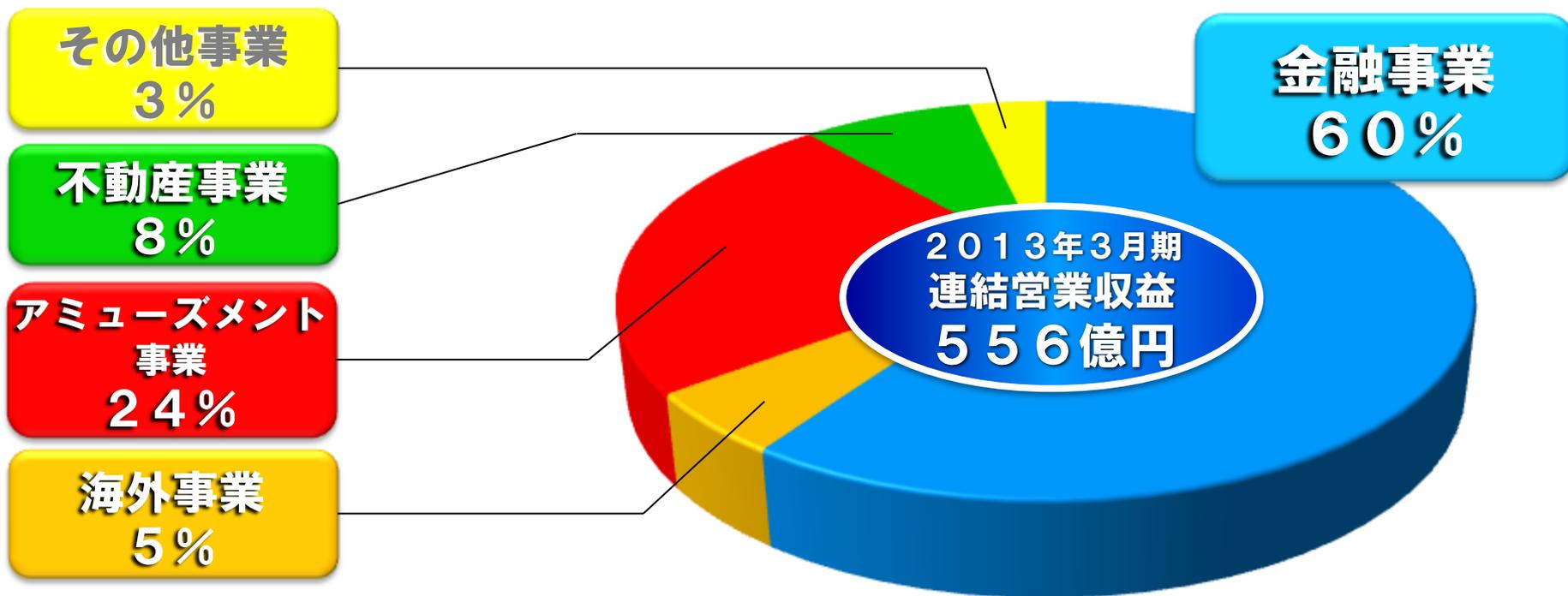
2010年

2013年

Point

- Jトラストグループは大きく5つの事業で構成
- 国内と海外を合わせた金融事業は、営業収益全体の65%を占める

営業収益のセグメント別構成（2013年3月期）



主な金融事業会社（2013年6月末現在）



KC Card
クレジットカード事業
信用保証事業



日本保証
個人・事業者向け貸金事業
信用保証事業

Jトラストグループ



クレディア
個人・事業者向け貸金事業

西京銀行グループ



SAIKYOCARD
個品割賦事業
個人向け貸金事業



PARTIR
サービス事業



親愛貯蓄銀行
銀行業（韓国）



NEOLINE CREDIT
個人向け貸金事業（韓国）

セクション1

ファーストステージの振り返り



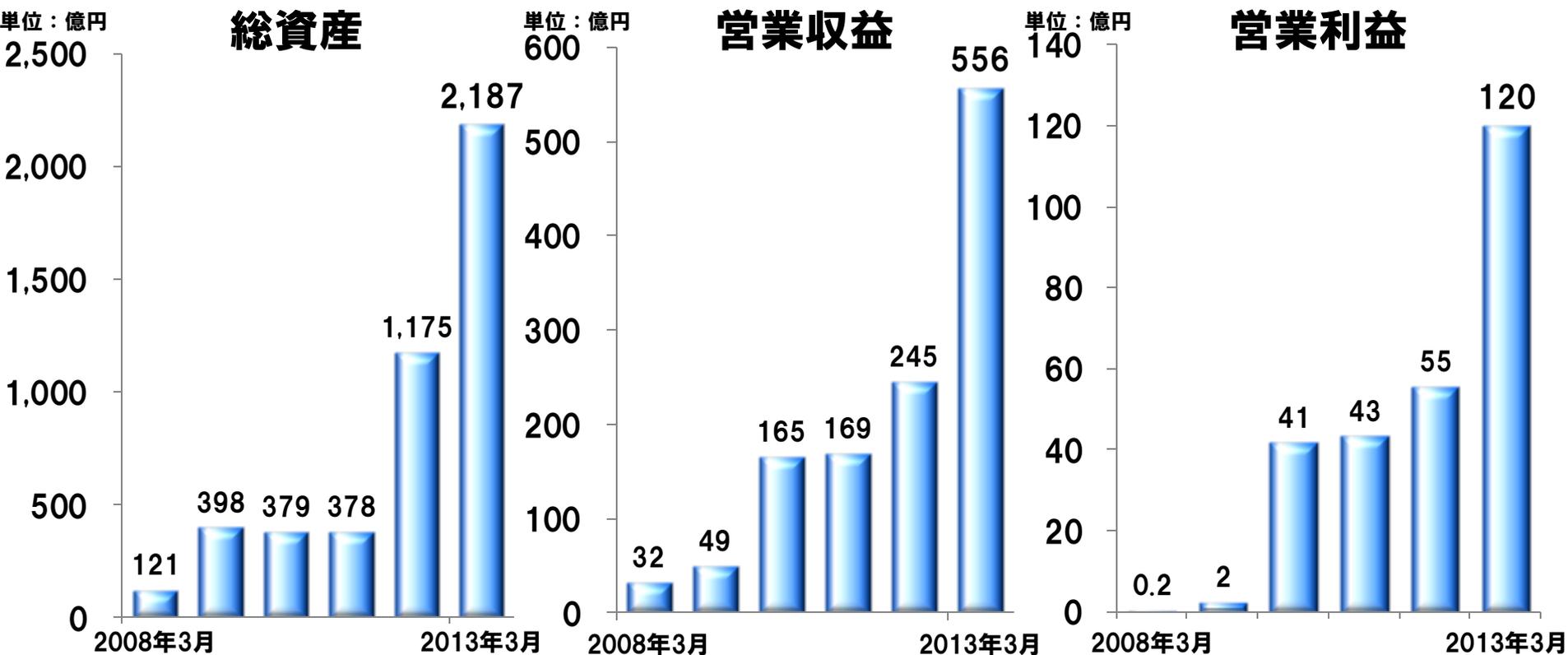
Point

- 直近2年間で、1,150億円を投資
- この5年間では1,400億円を投資



Point

- グループ総資産は121億円から2,187億円へ約18倍
- 連結営業収益は32億円から556億円へ約17倍
- 連結営業利益は2千万円から120億円へ約600倍

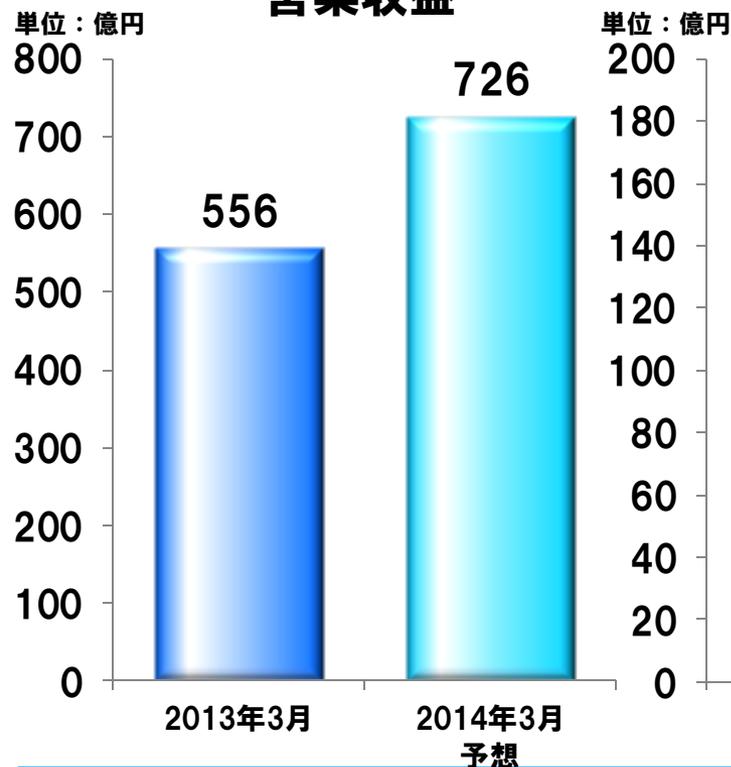


Point

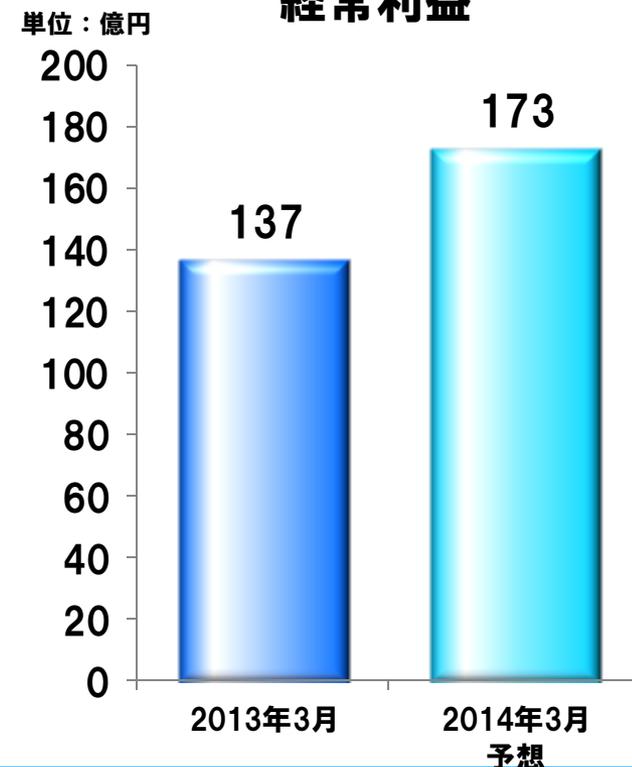
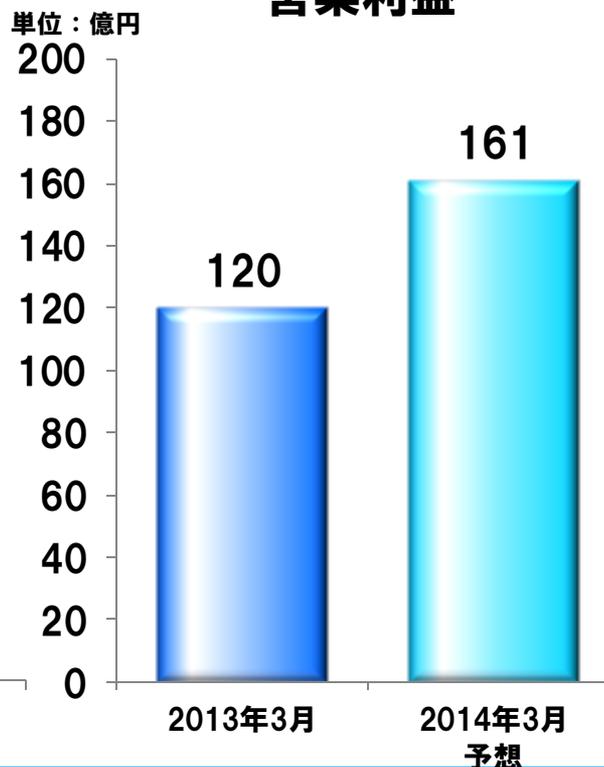
- 営業収益は726億円、前期比30%増と予想
- 営業利益は161億円、前期比34%増と予想
- 経常利益は173億円、前期比26%増と予想

※ 予想は2013年8月9日現在
経常利益

営業収益



営業利益



Jトラスト月足チャート（5年）

時価総額 **33** 億円 時価総額 **1,732** 億円

1日平均出来高
単位：株

株価
単位：円



※2012年6月1日付で1株を2株に株式分割し、2013年5月31日付で新株予約権無償割当を行いましたので、株価チャートおよび出来高はこれらの影響を遡及調整しております。

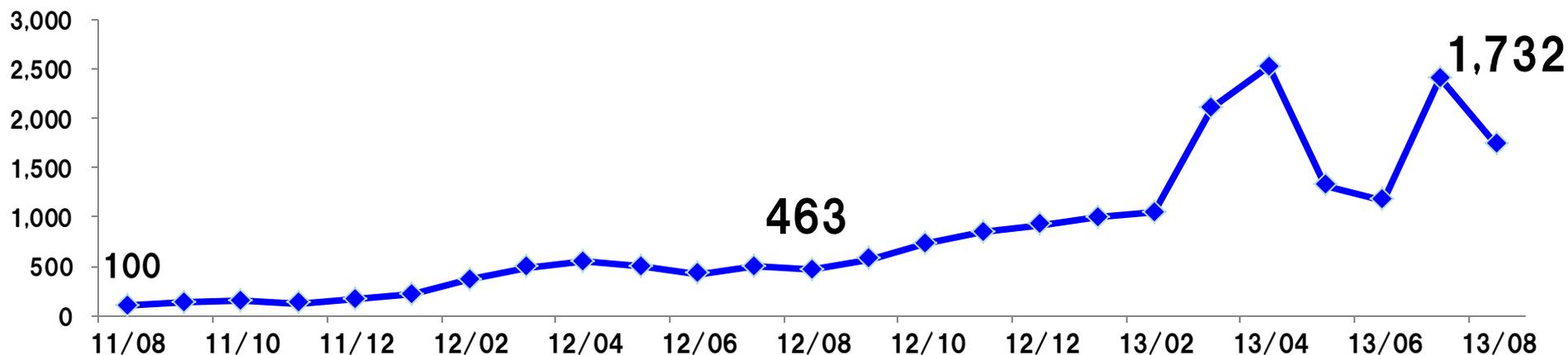
東証2部上場会社における時価総額ランキング（568社中）

2013年8月28日現在 単位：億円

順位	名称	時価総額
1	Jトラスト	1,732
2	帝国ホテル	983
3	朝日インテック	936
4	アトム	878
5	日本精機	822

順位	名称	時価総額
6	ハイレックスコーポレーション	760
7	歌舞伎座	595
8	日本ケミカルリサーチ	593
9	理研ビタミン	571
10	三谷商事	536

時価総額の推移（2年間）



1st Stage

事業基盤整備を図るための成長

2nd Stage

新たな成長を目指す

- 手元資金の確保
- 自己資本の充実

**ライツ・オフリングで
約977億円を調達**

目的

- 手元資金の確保
- 自己資本の充実



ライツ・オフリングで
約977億円を調達

自己資本

2013年6月末 658億円

1,635億円

自己資本比率

2013年6月末 28.6%

49.9%

資本金

2013年6月末 46億円

535億円

セクション2

セカンドステージに向けた 今後の成長戦略



代表取締役社長

藤澤 信義

調達資金の使途と今後の成長戦略

➤ 国内金融事業の強化と海外金融事業の推進

1) 信用保証事業の拡大

2) クレジットカード事業の強化

3) 海外事業の推進

- 韓国→親愛貯蓄銀行への増資
- 東南アジア等→銀行業への参入



1) 信用保証事業の拡大

➤ 独自のノウハウでアセットを銀行へ積み上げ、保証料収入を増加

- 銀行に対しマーケティングから債権管理までの全てのノウハウを提供し、銀行に残高を積み上げ、保証料を得るモデル

➤ 新たな提携先金融機関の開拓

- 2013年8月 トマト銀行と提携を開始
- 資本提携も視野に入れ金融機関を開拓



2) クレジットカード事業の強化

➤ 「量」の拡大と「質」の向上

- B to C事業によるクレジット会員の増加
- サービスの向上によるメインカード化
- M & A や債権買取りへの取り組み



3) 海外事業の推進

➤ 韓国：親愛貯蓄銀行の規模拡大

- リテール・ファイナンスのノウハウを活かし貯蓄銀行業の成功モデルを確立
- 債権買取を進めると同時に親愛貯蓄銀行の資本増強



➤ 新興国への参入

- 東南アジア等の新興国をターゲットに銀行業を中心とした金融分野への進出



ご清聴ありがとうございました

- **本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での弊社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。**
- **また、説明会および本資料は、当社の事業内容及び業績等をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。**
- **当社の有価証券に関する投資に関する決定は、有価証券届出書を熟読のうえ、皆様ご自身の責任と判断において行われますようお願いいたします。**